

# 東京都立大学プレミアム・カレッジ同窓会

## プレミアム・カレッジからの旅立ち： 連続講演・展示企画 「芭蕉の『おくのほそ道』と漢詩文」からの展望（抄）

本科・専攻科第Ⅰ期修了生 夏 目 重 美

（亜細亜大学名誉教授・

東京都立産業技術大学院大学客員研究員）

令和8年（2026）2月19日

（於：東京都立大学南大沢キャンパスⅠ号館ⅠⅠ0教室）

# I 縄文への旅立ち

1. 縄文研究と山田昌久先生
2. 各地の縄文遺跡探訪
3. 考古学の成果－発掘による「もの」は存在  
－文字・音声・映像・デジタル等の「記録のない」世界
4. 縄文の解明は多様な科学分野からのアプローチを必要  
－「想像」の世界の広がり
5. 音楽・美術・芸能等の文藝分野からのアプローチも必要  
－「感覚・感性」の世界
6. 文字概念を極限まで切り詰めた「俳句」文藝から無文字文化へ



## Ⅱ 基礎となる2つの論文

### 1. 本科の修了論文（配付資料1）

「縄文文化の多様性に地貌季語の源流を探る」

### 2. 専攻科の修了論文（配付資料2）

「無文字縄文社会に歳時記の源流を探る  
—考古学的検証と文芸論の邂逅—」

## Ⅱ－Ⅰ 本科修了論文（配付資料Ⅰ）要旨

### 「縄文文化の多様性に地貌季語の源流を探る」

- (1) 『歳時記』の矛盾・限界に着眼し『地貌季語』を探索
- (2) 考古学・人文地理学・風土学的視点から『地貌季語』に接近
- (3) 文藝論と考古学等の分析科学との方法的矛盾の昇華  
(前提としての西洋的哲学と日本的哲学の矛盾の昇華)
- (4) 『地貌季語』の源流と縄文文化の多様性との『邂逅』の論理

## Ⅱ－Ⅰ－（Ⅰ）考古学への接近方法

- ・人文科学的・社会科学的接近－蓋然性の抽出
- ・自然科学的接近－抽出概念の検証
- ・実証的・実験的接近－具体的に可資化

（参照）拙稿（2019）『修了論文』東京都立大学（配付資料Ⅰ）

## Ⅱ－Ⅰ－（２）邂逅の論理の前提

（議論の前提）学問の根本原理たる 哲学それ自体の存立と根拠－古代ギリシャ以来、近代までの3千年、唯一無二とされてきた学問的範型を問い詰める。

学問の三つの伝統：紀元前6～7世紀哲学の特殊形を指す。

発祥時は、いずれも世界と人生の理性的反省から生じる。「五明」と「修辞」は独自の近代化をなし得ず、ギリシャ哲学の圧倒的格差となる。

- ・インドの「五明」。

仏教的学問分類、内明・医方明・因明・声明・工巧明（くぎょうみょう）を言う。  
三段論法の域（≠弁証法）に留まる。

- ・中国の「修辞」。諸子百家（周末～漢の諸学者や派）の道德哲学の域に留まる。

- ・ギリシャの「論証」。弁証法・修辞法・厳格な論証法の確立。

（古代ギリシャのアリストテレス（前384～前322）、ユークリッド（西没年不明）の幾何学など形式論理の徹底）。

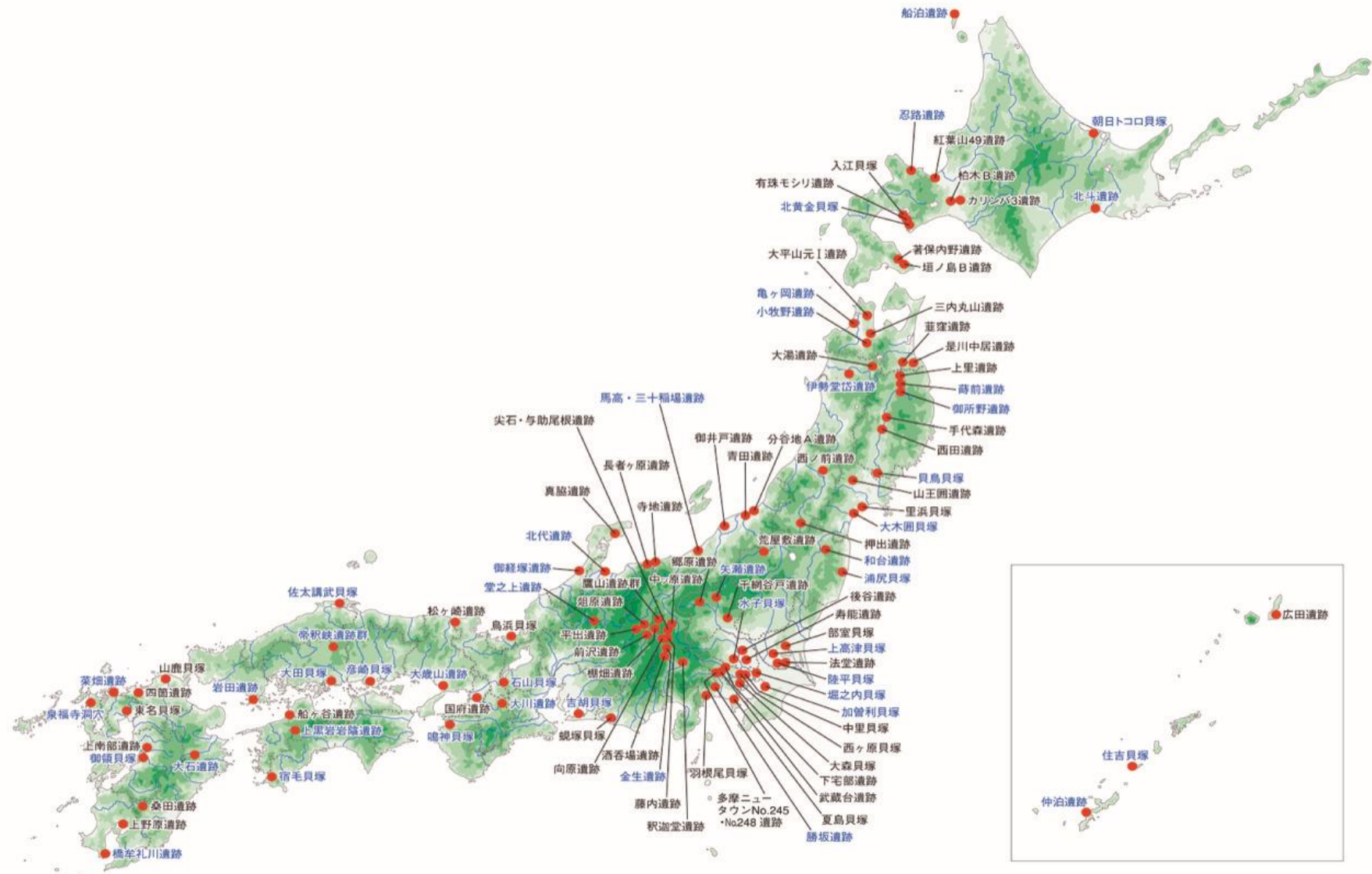
参考：木岡伸夫（2017）『邂逅の論理〈縁の結ぶ世界へ〉』春秋社。

# Ⅱ－Ⅰ－（３）縄文時代の編年



（参照）：山田康久（2019）『縄文時代の歴史』講談社。

## II-1-(4) 縄文遺跡探訪



# Ⅱ－１－（５） 縄文カレンダーと歳時記



## 縄文人の食料獲得と季節性

(1) 食用植物

(2) 貝・魚類・コンブ

(3) 陸生獣類・鳥類・昆虫

## 自然の生態系との共生

収穫→保存食の作成→石器・土器の作成→年間の生活スタイルの循環→移動の民ではなく定住→栽培・飼育→分業体制

(参考：小林達雄『縄文人の世界』朝日選書1996年7月)

## Ⅱ－Ⅰ－（６） 縄文カレンダーと歳時記

# 函館縄文カレンダー



# 福岡縄文カレンダー



# Ⅱ-1-(7) 縄文カレンダーと歳時記

## 長岡縄文カレンダー



## 水子貝塚四季の生業



## Ⅱ-2. 専攻科修了論文（配付資料2）要旨

### 「無文字縄文社会に歳時記の源流を探る —考古学的検証と文芸論の邂逅—」

- (1) 『通態』概念による「矛盾」の昇華からの空間軸と時間軸の融合
- (2) 瞬間・瞬間と場所・場所の景観の位相につき連続性と可変性を認識
- (3) 個の尊厳と多様性社会における相互依存と相互尊重の必然性
- (4) 『歳時記』は有文字文化社会における無数の表現要素の宝庫
- (5) 『歳時記』の矛盾はすでに縄文の無文字文化・社会にその源流
- (6) 縄文遺跡・遺物への三つの接近方法  
(人文・社会科学的接近、自然科学的接近、実験・実証的接近)
- (7) 所与の普遍的概念：「漂着（移動と到達）」「生業」「死生」
- (8) 日本列島のホモ・サピエンス（人の痕跡）の痕跡
- (9) DNA解析による生物多様性の分子（遺伝子）レベルの検証

## Ⅱ－2－（Ⅰ）目的・方法・独自性

- 目的：歳時記の内包する矛盾を昇華し，  
表現者のあるべき姿勢を探索する
- 方法：短詩型文芸論と考古学的方法論を  
適用する。
- 独自性：矛盾を昇華する論理的裏付けとして，  
『邂逅の論理』と『通態』概念を適用する

## Ⅱ－2－（2）短詩型文芸の歳時記に臨む

表現者の五感（視・聴・嗅・味・触）と、景觀（環境）認識の瞬間・瞬間，場所・場所に  
おける自由な精神の発露を基礎とし，個の尊  
厳と他者を矛盾無く包括する『通態』概念の  
もとに再構築すること。

地球規模の危機意識の迫る中，新たな哲学  
の道を開闢する必要性を認識する。

# Ⅱ－2－（3）文字社会と無文字社会

## 文字社会

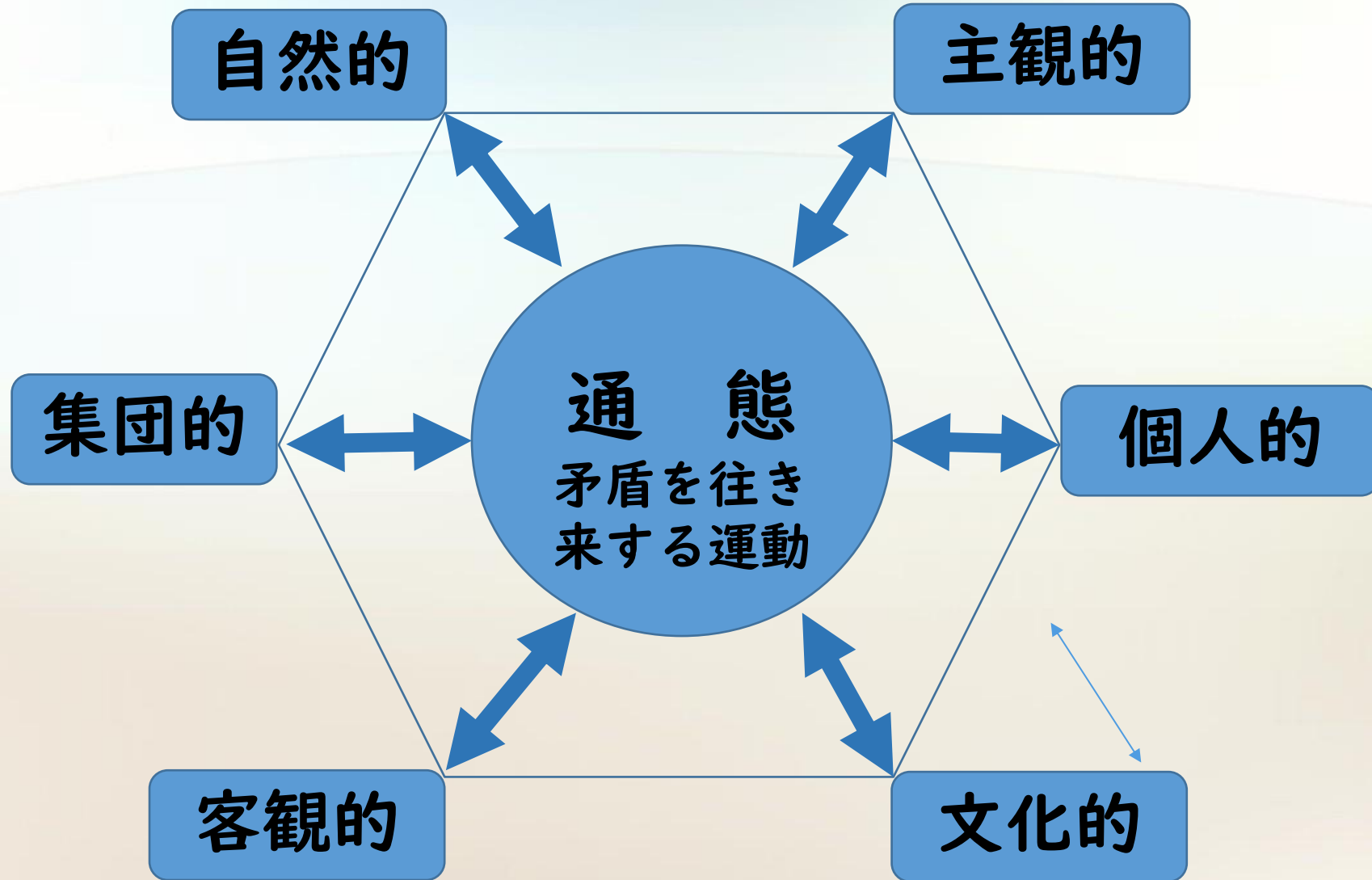
歴史認識においては、文字記録による意味に関する、意図的・偶然的誤謬の混在する可能性がある。記録の計量化により、更なる権力化が進み、人間精神の硬直化をもたらす。

## 無文字社会

歴史認識においては、口承（口頭伝承）であっても、文字社会と同じ誤謬の混在する可能性と不合理な集団支配を惹起する可能性を否定できない。

真（学問感）・善（宗教感）・美（文芸感）を求める無限の道筋に常に立ちはだかる矛盾の昇華こそ新たな価値体系である。

## Ⅱ－2－（４）「通態」概念



参考：  
オギュスタ  
ン・ベルク，  
木岡伸夫訳  
(2019)  
『風土学は  
なぜ何のた  
めに』関西  
大学出版部。

# Ⅱ2－（５）二つの科学的検証の可能性

## 気候変動から日本史を再考

- ・中塚武『酸素同位体比年輪年代法－先史・古代の歴年と天候を編む』同成社2021年6月
- ・中塚武監修『新しい気候観と日本史の新たな可能性』（気候変動から読みなおす日本史全6巻中の〔1〕）臨川書店2021年1月
- ・中塚武『気候適応の日本史－人新世をのりこえる視点』吉川弘文館2022年11月
- ・藤尾慎一郎・松木武彦『ここが変わる！日本の考古学－先史・古代史研究の最前線』吉川弘文館2019年3月

2026/2/26

## DNA解析から日本人をたどる

- ・斎藤成也『核DNAでたどる日本人の源流』河出書房新社2017年4月
- ・斎藤成也『ゲノム進化学入門CD-ROM付』共立出版2007年12月
- ・斎藤成也編著『最新DNA研究が解き明かす。日本人の誕生』秀和システム2020年8月

## Ⅱ－2（6）年縞博物館の可能性

過去7万年：世界の標準時計

水月湖年縞7万年ギャラリー

- ・ 福井県若狭湾「水月湖」の湖底
- ・ 厚さ45メートル、時間にして  
およそ7万年の年縞の堆積

中川毅『時を刻む湖－7万年の地層に  
挑んだ科学者達』岩波2015年9月



## Ⅱ－2－（７）年縞堆積の環境要因

### 水月湖の地形要件

- ・水月湖も三方湖も若狭湾岸にあり、細い水路で繋がっている。三方湖のほとりには鳥浜貝塚がある。
- ・水月湖には直接流入する河川無し。
- ・水深30メートルと深く酸素供給無い。
- ・堆積物は連続的に静かに貯まる。
- ・硬い岩石基盤まで75メートルの堆積物採取に成功。
- ・東方の活断層は山を隆起、西側を沈降させ水月湖を深くする。

レインボーライン展望台からの水月湖



## Ⅱ－2－（８）鳥浜貝塚

- ・三方湖のほとりにある縄文時代の大規模遺跡

- ・ 1962～1985発掘

- ・ 大型丸木舟・漆製品・

- 住居跡・動物の骨など大量の遺物

- ・ 多様性に富み、保存状態良い

- ・ 縄文のタイムカプセルの異名

小島秀彰『日本の遺跡51鳥浜貝塚』

同成社2016年10月



## Ⅱ－2－（９） ヤポネシアンについて

### 先史時代からの人の痕跡

- ・ 先史時代からの人の生業の痕跡を辿る。
- ・ 年表の時代区分を再検証する。
- ・ **日本列島人**の蓄積したアイデンティティを探る。

文部科学省新学術領域研究「ヤポネシアゲノム」  
5年間の成果報告シンポジウム報告集      ⇒

### 「yaponesian」運動の展開



# 国宝・縄文のヴィーナス

(縄文中期・茅野市棚畑遺跡)

二〇二〇年九月四日撮影 (尖石縄文考古館)



## ヴィーナスの

## 孕む縄文星月夜

## 重美

2026/2/26

# 国宝・仮面の女神

（縄文後期前半・茅野市中ツ原遺跡）

二〇二〇年九月四日撮影（尖石縄文考古館）



横たはる

仮面土偶や月清し

重美

2026/2/26

# 国宝・合掌土偶

（縄文後期後半・風張―遺跡）

二〇一九年一二月六日撮影（八戸市是川縄文館）



## 合掌の土偶の肩や初明り

重美

# 国宝・茅空土偶

（縄文後期後半・著保内野遺跡）

二〇一九年一月一五日撮影

（函館市臼尻町縄文文化交流センター）



風卷来る

茅空土偶死者に添ふ

重美

2026/2/26

# Ⅲ プレミアム・カレッジを離れて ー地域と歴史と文藝とー

## 1. 二つの生涯学習団体の立ち上げ

(定期的に専門講師を招聘)

### (1) 武蔵野ふれあい古文書会

『皇女和宮御下向』の翻刻作業

### (2) 武蔵野漢詩愛好会

漢詩鑑賞と作詩

## 2. 展示会・講演会等の企画・申請・実施

# 事例！ 武蔵野ふれあい古文書会

- 公開講演チラシ
- 御栗林と関前村名主井口家

公開講演会

## 御栗林と関前村名主井口家

講師 米崎清実氏

関前村を開発した名主井口家は、御栗林を管理する村々の代表者でもあった。武蔵野新田における御栗林の意味や、井口家が代表者を務めたことの意味について考える。

日時： **2月 9日 (日)**  
午後 2時 ~ 4時

定員： **32名** **申込順**  
・無料

会場：武蔵野  
**市民文化会館**  
**3階第1会議室**



申込先： 夏目 [natsusn888@gmail.com](mailto:natsusn888@gmail.com)  
090-6135-0880

主催：武蔵野ふれあい古文書会

(武蔵野市教育委員会補助金受給)

# 事例2：芭蕉武蔵野漢詩愛好会



## 連続公開講演会 芭蕉『おくのほそ道』の旅程を辿る ～旅と生きざまと漢詩世界と～ 講師 塚越 義幸 氏

① 9月13日(土) 14:00～16:00  
序章・旅立ち・草加

② 10月11日(土) 14:00～16:00  
室の八島・仏五左衛門・日光

③ 11月 8日(土) 10:00～12:00  
那須・黒羽・殺生石・遊行柳

④ 12月13日(土) 10:00～12:00  
白川の関・須賀川・あさか山・しのぶの里

⑤ 1月10日(土) 14:00～16:00  
佐藤庄司が旧跡・飯塚・笠島・武隈

⑥ 2月14日(土) 14:00～16:00  
宮城野・壺の碑・末の松山・塩竈

⑦ 3月14日(土) 14:00～16:00  
松島・石の巻・平泉

※この続きの旅程は次年度開催予定

### 【会場】

三鷹北口かたらいの道(9月～2月)  
武蔵境北口スイングホール11階(3月)

参加費：無料(希望者要予約：角川書店編『松尾芭蕉「おくのほそ道(全)」』角川ソフィア文庫10%引き673円)

申込み・問合せ：武蔵野漢詩愛好会(夏目)  
tenbin.sakura@gmail.com  
090-6135-0880

(武蔵野市生涯学習事業費補助金給付事業)

## 事例3…『おくのほそ道』 に見る漢詩の影響

弥生も末の七日、あけぼのの空朧朧  
として、月是有明にて光をさまれるも  
のから、富士の峰幽かに見えて、上  
野・谷中の花の梢、またいつかはと心  
細し。むつまじき限りは宵よりつどひ  
て、舟に乗りて送る。千住といふ所に  
て舟を上げれば、**前途三千里**の思ひ  
胸にふさがりて、幻の巷に離別の涙を  
そそぐ。

### 行く春や鳥啼き魚の目は涙

これを矢立の初めとして、行く道なほ  
進まず。人々は途中に立ち並びて、後  
影の見ゆるまではと、見送るなるべし。

ビギナーズ・クラシックス日本の古典

松尾芭蕉『おくのほそ道』（全）

角川書店編

# 矢立初めの地の一句 (千住大橋)

行く春や

鳥啼き魚の

目は涙

芭蕉



## 事例4…『おくのほそ道』 文章中に見る漢詩の影響

「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり・・・」

冒頭に人生は旅であると人生観を掲げている。

古代中国の唐の詩人李白や杜甫、日本の歌人西行や宗祇に学んでいる。

李白「夫れ、天地は万物の逆旅（旅館）にして、

光陰（月日）は百代の過客なり。

而して浮生（はかない人生夢の若し）」

『春夜、桃李園に宴するの序』

ただし芭蕉と李白の時間に対する考え方はまるで異なる。

李白…過ぎた時間は取り戻せないから  
精一杯楽しむ。

芭蕉…時間のただ中に飛び込んで、  
人生の真の意味を追求するために  
書齋を捨て旅に出る。

## 事例5：『おくのほそ道』に見る古歌の影響

能因法師（九九八〜）

「世の中はかくても経けり象潟の  
あまのとま屋をわが宿にして」

（後拾遺和歌集）

西行法師（一一一八〜一一〇九）

「象潟の桜は波に埋もれて花の上  
こぐあまの釣り舟」

（自作と伝承されるが

西行の家集にはない）

# 芭蕉の象潟の一句

象潟や

雨に西施が

ねぶの花

芭蕉



2026/2/26

# Ⅲ 認知考古学への取組

「人と社会・文化そして人工物の間には常に密接な相互関係がある。認知考古学は人と環境、対象物の間の関係を認知的視点から追求する」

参照：松本直子・中園聡・時津裕子編（2003）

『認知考古学とは何か』青木書店他

# IV 漢詩を作る取組

## (添削後)

- 秋景色 夏曰重美
- 尋秋野景夕日斜
- 墜葉翻紅還勝花
- 猶自留連祠廟畔
- 悵然無語惜年華

## (添削前)

- 秋光野徑 夏曰重美
- 秋光野徑勝花紅
- 落葉逍遙一路通
- 古社清閑今昔感
- 夢遊古里覺風床

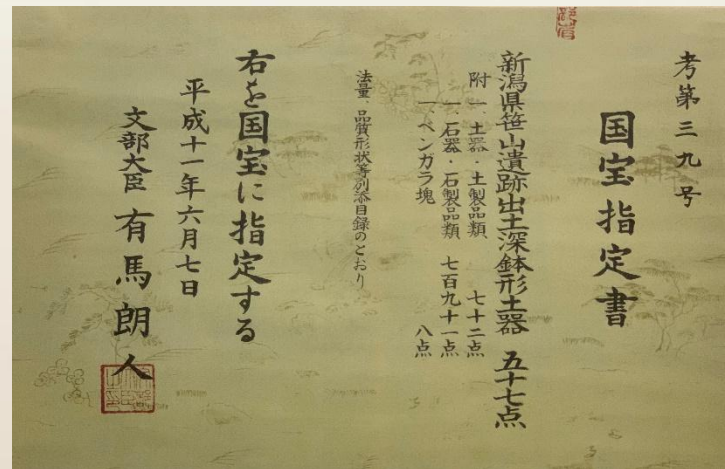
# 狐火の囲む越後や火焰土器 重美

ご静聴有り難うございました！

国宝「火焰土器」十日町市笹山遺跡：十日町市博物館，2019年9月4日撮影。



2026/2/26



# 正月の一句

野に大河

人笑うなり

お正月

金子兜太

神野紗季監修

『令和八年俳句の日めくり  
カレンダー』季語から知る  
日本の四季の美しさ』

(暦生活)